

株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ様

アメリカのカリフォルニア州にある高校に留学して約5カ月が経ち、留学生活もいよいよ残り半分となりました。最近、バスケットボール部のマネージャーとして学校のチームの練習に参加し、昼間は学校、夕方は部活、夜は勉強という充実した毎日を送っています。

私の住んでいるユバシティ (Yuba City) という町は、夏は乾燥して暑く、冬は雨が多いことが特徴で、自然が豊かで広大な土地がどこまでも続く綺麗なところ。日本で私が住んでいた町とはまったく異なる風景が広がっていて、車に乗ってどこかへ行くときは、つつい窓の外の壮大な景色に見入ってしまいます。なかでも、地平線の果ての見えない黄金色の大地に夕日が落ちていく様子を見たときはとても感激しました。

日本を離れてアメリカで生活をしていると、海外の人たちにどのくらい日本が知られているのかがよくわかります。スーパーでは、日本語が書かれた商品がしばしば目につきませんが、山葵や酒、日本のお菓子などの商品を手にとって見ると、おかしな日本語が書かれていたりして面白いです。また、学校では多くの友人たちに、油性ペンで「腕に日本語を書いてくれ」と頼まれることもあり、日本語で手紙をもらったこともあります。日本のアニメやゲームも有名で、みんなが知っています。

このように日本に関心があって、「よく知っているなあ」と感心する一方で、間違っただ日本像を持っている人もたくさんいます。香港を日本だと思っていたり、「犬や猫を本当に食べるの?」と聞かれたり、ジャッキー・チェンやヤオ・ミンなどの有名な中国人のことをいろいろと尋ねられたこともありました。なかでも最も驚いたのは、日本に今でも忍者がいると思っている人がいたことです。私は、そうした機会に遭遇するごとに、“一人の日本人留学生として、正しい日本を知ってもらわねば!”と、つたない英語で懸命に日本のことを知ってもらう努力を続けています。海外の人にとって、日本はまだ極東のどこかにある小さな島のようなようです。

アメリカと日本には多くの文化の違いがありますが、その文化の違いによって学校にも日本と異なる点がたくさんありました。最も驚いたのは、違う学年の人とも一緒に授業を受けるというシステムです。日本では、学年別の上下関係が強く、先輩や後輩と一緒に授業を受けることはありません。しかしアメリカでは、学年に関係なくどんな人とも親しく話しますし、意見も自由に述べあいます。年下でも、遠慮なくさまざまな学生がどんどん話しかけてくれるので、世代を超えたいろいろな友達をつくることができました。この点はとても良かったと感じています。それとは逆に、アメリカの良くないと思った点は、食べ物に対する考え方の違いで、昼食を屋外で食べる時、食べ物を投げて遊んだり、好き

嫌いをしたり、ゴミをそのまま捨てていく人が、日本と比べてとても多かったです。

ホストファミリーとは、留学する直前のメールのやり取りで、いろいろなスポーツと一緒にやることを約束していました。ホストファザーは、ボートや4輪バイク、庭にプールも保有していたので、ものすごくアウトドア好きなのかと思いましたが、周囲にあるどこの家も同じような感じだったので、そこには日本との違いをすごく感じました。カリフォルニア州では、なんでも広くて大きいのでアウトドアもダイナミックなのでしょう。そうした環境のもと、“こんなことは、日本では体験できない！”と思い、私は、バスケットボール、ボーリング、ハンティング、野球、ウォータースキーなど、さまざまな種類のスポーツに挑戦しました。なかでも、思い出として強く印象に残っているのがクレー射撃です。弾を込め、肩に構え、セーフティーを外し、クレーを目がけて引き金を引く。こうした一連の動きを目の当たりにし、実際に目の前で見た銃の威力には手汗をかいていました。ショットガンのキックバック（射撃の反動）が、あんなにも強烈だなんてことは、日本には知り得なかったことだと思います。本当に素晴らしい体験でした。

私は、こうしたいろいろな体験を通じて、少しずつですが自分自身が成長していることを感じています。自分のこれまでの留學生活の過ごし方を振り返ると、とても満点はあげられませんが、英語がまったく駄目な私でも、たくさんの友達ができることがわかりました。引き続き、残りの留學生活も一生懸命に取り組み、たとえ赤点だったとしても、今回の高校留學が“努力の証”となることを目指していきたいと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい体験を援助してくれたすべての方に感謝しています。ありがとうございました。

2011年2月
西川 匠
(留學先のアメリカより)